

平成19年度 青葉区区民意識調査

調査結果報告書

(概要版)

平成19年12月

横浜市青葉区

目 次

調査概要.....	2
. 回答者の属性にみる特徴.....	3
. 集計分析結果.....	4
1. 青葉区について.....	4
2. 青葉区の生活環境について.....	7
3. 防犯について.....	10
4. 環境活動について.....	13
5. 子育てや福祉について.....	15
6. 行政サービスについて.....	19
7. 横浜市開港 150 周年、青葉区区制 15 周年について.....	21

調査目的

この調査は、青葉区民の日常生活における行動や意識を調べ、今後の区政運営の参考とするために実施する。

また、調査結果については、市民意識調査や過去の青葉区区民意識調査と比較し、分析を行う。

調査概要

平成 19 年度 青葉区区民意識調査

調査対象
調査対象数 3,000 人（青葉区に居住する 16 歳以上の男女・無作為抽出による）
回収数 1,588 件（各図の中の N という表示は、回答者数を表す）
回収率 52.9%
調査方法
郵送によるアンケート方式
調査期間
平成 19 年 9 月

参考

青葉区 区民意識調査

	対象	対象数	回収数	回収率	調査方法	調査時期
19 年度	16 歳以上	3,000	1,588	52.9%	郵送	9 月
16 年度	20 歳以上	3,000	1,727	57.6%	郵送	9 月
12 年度	15 歳以上	4,000	1,980	49.7%	郵送	5 ~ 6 月

横浜市 市民意識調査

19 年度	20 歳以上	5,000	3,698	74.0%	訪問	6 ~ 7 月
-------	--------	-------	-------	-------	----	---------

調査概要の比較

平成 19 年度と過去の調査を比較すると、調査方法は全て郵送によるアンケート方式であるが、対象年齢が高くなるほど回収率が高くなっていることがわかる。

また、平成 19 年度市民意識調査の調査方法は、調査員による訪問面接方式であり、郵送によるアンケート方式よりも回収率が約 20 ポイント高くなっていることがわかる。

・回答者の属性にみる特徴

女性が約 16 ポイント多い(性別)

- ・ 女性が 56.4% で、男性 40.7% より 15.7 ポイント多くなっている。

20 代、76 歳以上がやや少なく、「41～45 歳」「56～60 歳」はやや多い(年齢)

- ・ 16～20 歳が 3.5% で最も少なく、41～45 歳、56～60 歳がそれぞれ 10.8% で最も多い。21～25 歳が 4.1%、76 歳以上が 5.3% でやや少なく、それ以外の年代はそれぞれ 6～10% 前後でほぼ均等に分散。

継続して増加傾向(居住開始時期)

- ・ 「平成 7 年～11 年(1995～1999 年)」(15.4%) 「平成 12 年～16 年(2000～2004 年)」(17.6%) の 10 年間で合わせて 33.0% で最も多く、継続して増加傾向にある。

「東京 23 区」が 4 分の 1 (以前の居住地)

- ・ 「その他」の 26.2% が最も多くなっているが、それ以外では「東京 23 区」(25.6%) 「川崎市」(16.8%) 「青葉区以外の横浜市」(15.1%) などである。

図 - 1 - 以前の居住地

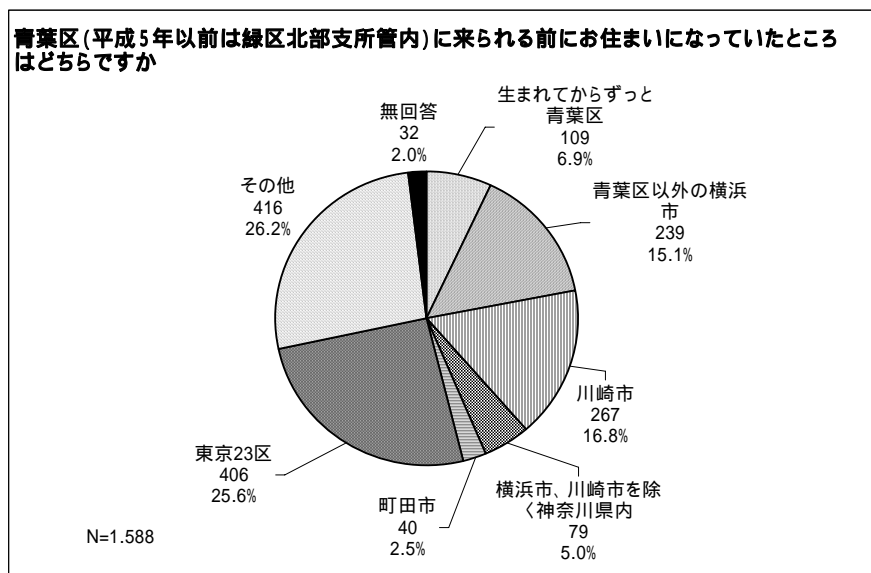


図 - 1 - 「その他」意見内容

地方	件数
北海道	13
東北	16
関東	89
関東(神奈川県)	3
東京都	46
信越・北陸	15
東海・近畿	75
東海・近畿(大阪府)	45
中国・四国	14
九州・沖縄	26
その他	5
海外	40
総計	387

(図 - 1 - 「その他」は、無記述を含む)

持家率は 7 割を超える(住居形態)

- ・ 「持家(一戸建て)」が 48.4%、次いで「持家(マンション・共同住宅)」23.9% となっており、持家率は 7 割を超える。

「親と子(2 世代)」が 6 割(家族形態)

- ・ 「親と子(2 世代)」が 60.3% で最も多く、以下「夫婦だけ」(22.9%) 「親と子と孫(3 世代)」(8.1%) 「ひとり暮らし」(5.7%) 「その他」(0.8%) の順となっている。

「勤め(全日)」が約 3 割、次いで「家事」が 2 割強(職業)

- ・ 「勤め(全日)」が 31.0% で最も多く、次いで「家事」(23.3%) 「無職」(18.3%) 「勤め(パートタイム)」(9.7%) 「自営業」(5.7%) 「学生」(5.3%) 「自営業の家族従事者」(2.3%) 「その他」(1.4%) 「内職」(0.3%) の順。

家族の状況

同居している子どもの有無は、「いる」が半数強

子どもの状況は、「その他」を除くと「未就学」が最も多い。「その他」は「社会人」が大多数

同居・別居を問わず、区内に 65 歳以上の家族の有無は、「いない」が 6 割超

日中、家で子どもの世話をする方の有無は、「いない」が全体の半数弱

共働きについては、「していない」が全体の 7 割弱

集計分析結果

1. 青葉区について

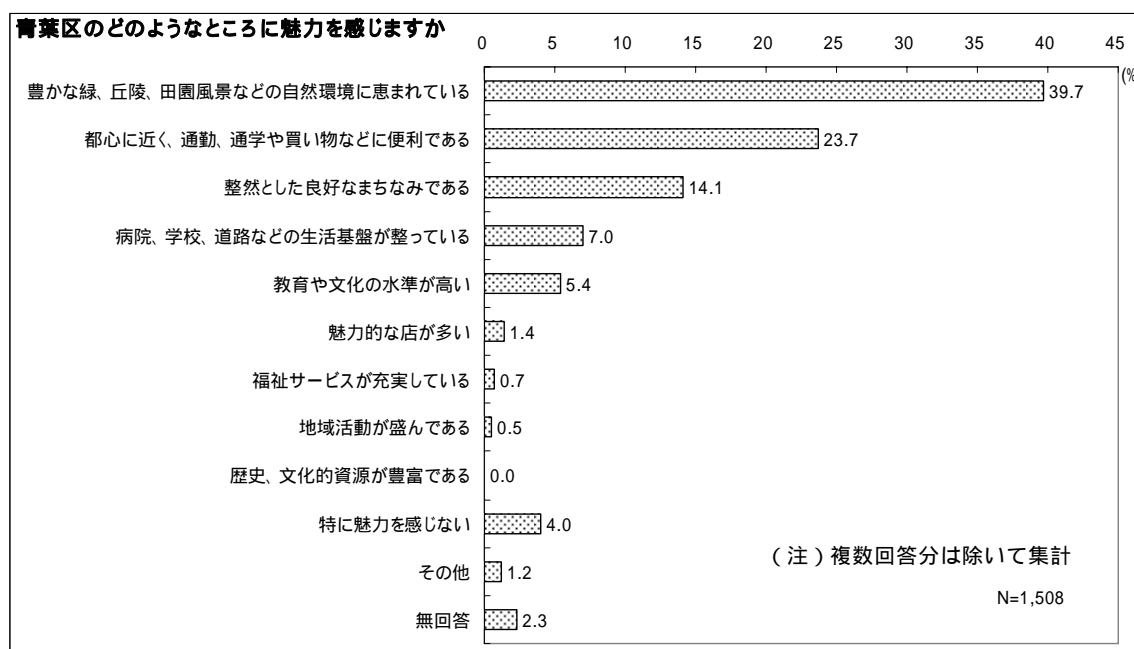
豊かな緑、自然環境に強い魅力を感じている。一方都会的な雰囲気にも恵まれ定住意向は8割を超える。

青葉区の魅力

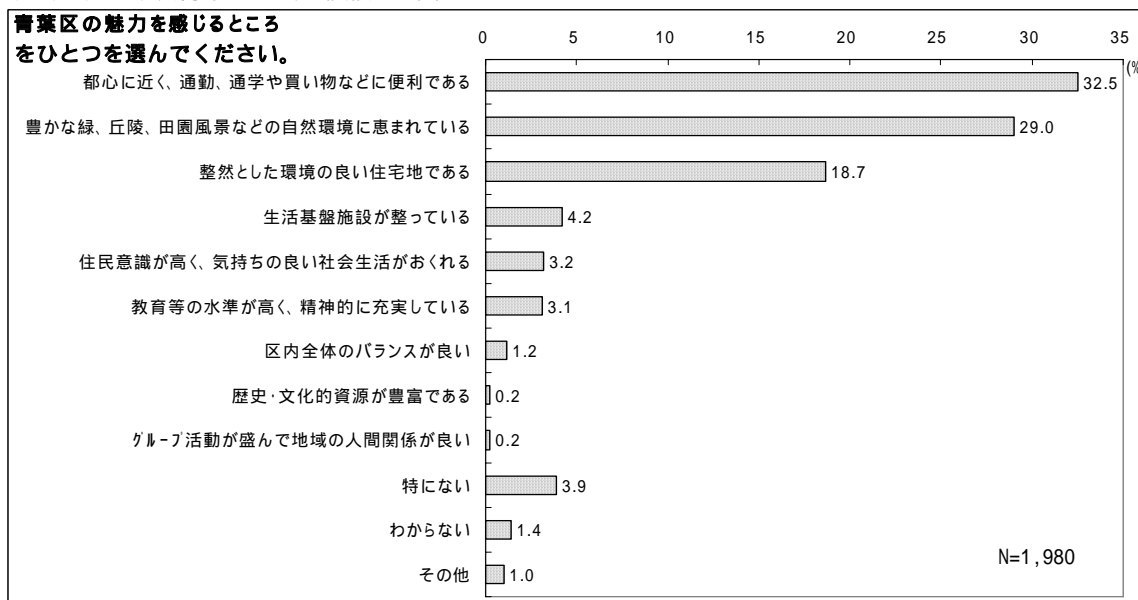
「豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然環境に恵まれている」、次いで「都心に近く、通勤、通学や買い物などに便利である」、「整然とした良好なまちなみである」が多く、豊かな自然に恵まれていることに魅力を感じている人が特に多い一方、都会的な雰囲気という一見相対する魅力も好意的に捉えられている。

平成12年度調査では「都心に近く、通勤、通学や買い物などに便利である」、次いで「豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然環境に恵まれている」であり、平成19年度調査までの間に自然環境への関心が高まったことがわかる。また、「整然とした良好なまちなみである」ことに対して魅力を感じている人は、依然として多い。

図 - 1 - 青葉区の魅力



参考 平成12年度青葉区区民意識調査 図 - 1 -

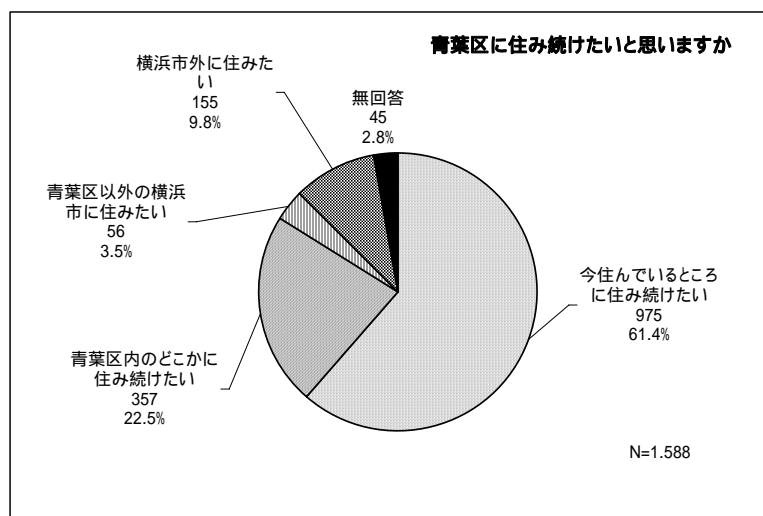


1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
交通・通勤などの便利さ	周辺の静かさ	ふだん買い物をする場所の近さ	緑や自然やオープンスペースの豊かさ	病院・医院の近さ	飲食やショッピングの便利さ	近所づきあいのしやすさ	まちなみなど景観のよさ	子育て環境のよさ	図書館、学校など教育・学習環境のよさ
51.2%	48.2%	44.1%	35.5%	29.2%	20.6%	18.2%	13.9%	11.4%	11.2%

青葉区への定住意向

「今住んでいるところに住み続けたい」が6割強。「青葉区内のどこかに住み続けたい」が2割強で、これらを合わせると青葉区内への定住意向は8割を超える。

図 - 2 - 青葉区への定住意向



10年後の青葉区は、夫婦のみ、あるいは独居の高齢者の増加、宅地化の進展による田園地帯の減少が進むと予想する区民が多い。

10年後の青葉区の姿

「そう思う」の方が多くなっているのは「高齢化や核家族が進み、夫婦のみや一人暮らしの高齢者が増加する」「農地の宅地化が進展することにより、緑豊かな田園地域が減少する」である。

「そう思わない」の方が多くなっているのは「住民の居住年数が長くなり、地域の連帯感が増す」「道路事情や環境問題により車依存から電車、バスなどの公共交通機関重視へと変わる」である。「大学や企業との連携によりスポーツや芸術などの独自の地域文化が誕生する」では「わからない」が最も多い。

「団塊の世代が積極的に地域活動に参加することにより、地域が活性化する」は「そう思う」「そう思わない」「わからない」がそれぞれ3割強で、三者がほぼ拮抗している。しかし、年齢別で見ると、46歳～60歳（10年後は、56歳～70歳）で「そう思う」の方が多くなっており、将来、同年代が、地域活動に参加すると予測していることがわかる。

図 - 3 - 10年後の青葉区の姿

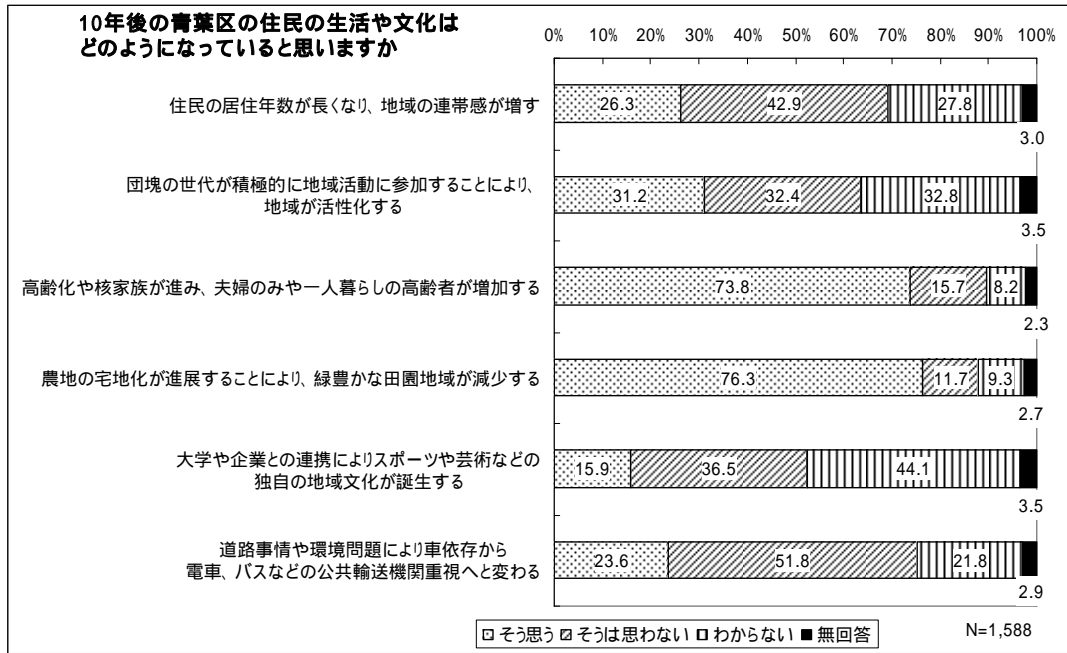


図 - 3 - 年齢別クロス集計 「団塊の世代が積極的に地域活動に参加することにより地域が活性化する」

		全体	そう思う	そうは思わない	わからない	無回答
全 体		1,588	496	515	521	56
		100.0	31.2	32.4	32.8	3.5
F 2 年齢	16～20歳	55	30.9	38.2	29.1	1.8
	21～25歳	65	40.0	35.4	24.6	0.0
	26～30歳	96	25.0	26.0	47.9	1.0
	31～35歳	142	31.7	29.6	38.0	0.7
	36～40歳	167	25.1	35.9	38.3	0.6
	41～45歳	172	24.4	33.7	40.1	1.7
	46～50歳	119	36.1	32.8	30.3	0.8
	51～55歳	133	34.6	27.8	34.6	3.0
	56～60歳	171	36.3	31.0	30.4	2.3
	61～65歳	153	34.0	37.3	26.8	2.0
	66～70歳	119	31.1	42.9	21.8	4.2
	76歳以上	84	34.5	25.0	25.0	15.5
	その他	83	28.9	24.1	27.7	19.3
無回答	29	24.1	27.6	37.9	10.3	

(注) 図中の色づけられた箇所は、各年齢で割合の高い項目(1位)

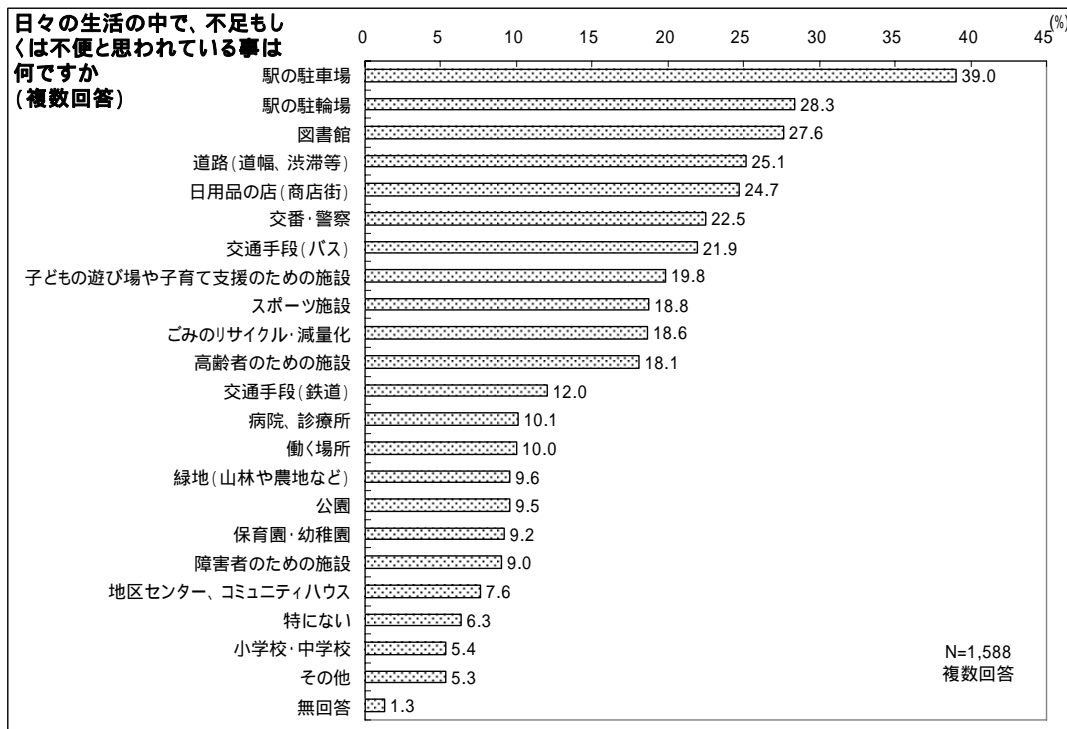
2. 青葉区の生活環境について

不便と感じているのは交通問題。美しいまちなみに悪影響を及ぼす要因への懸念が伺われる。

日々の生活の中で、不足もしくは不便と思われる事

「駅の駐車場」「駅の駐輪場」「道路（道幅、渋滞等）」「交通手段（バス）」が上位を占め、交通問題への関心が高いことが特徴となっている。全体的には、「駅の駐車場」との答えが多くなっているが、特に16歳～30歳までの若い世代では「図書館」、26歳～40歳では「子どもの遊び場や子育て支援のための施設」、また、66歳以上の高齢世代では「交番・警察」との答えが多く、犯罪など不安に感じている方が多いことがわかる。

図 - 4 - 日々の生活の中で、不足もしくは不便と思われる事



参考 平成16年度青葉区区民意識調査 図 - 4 -

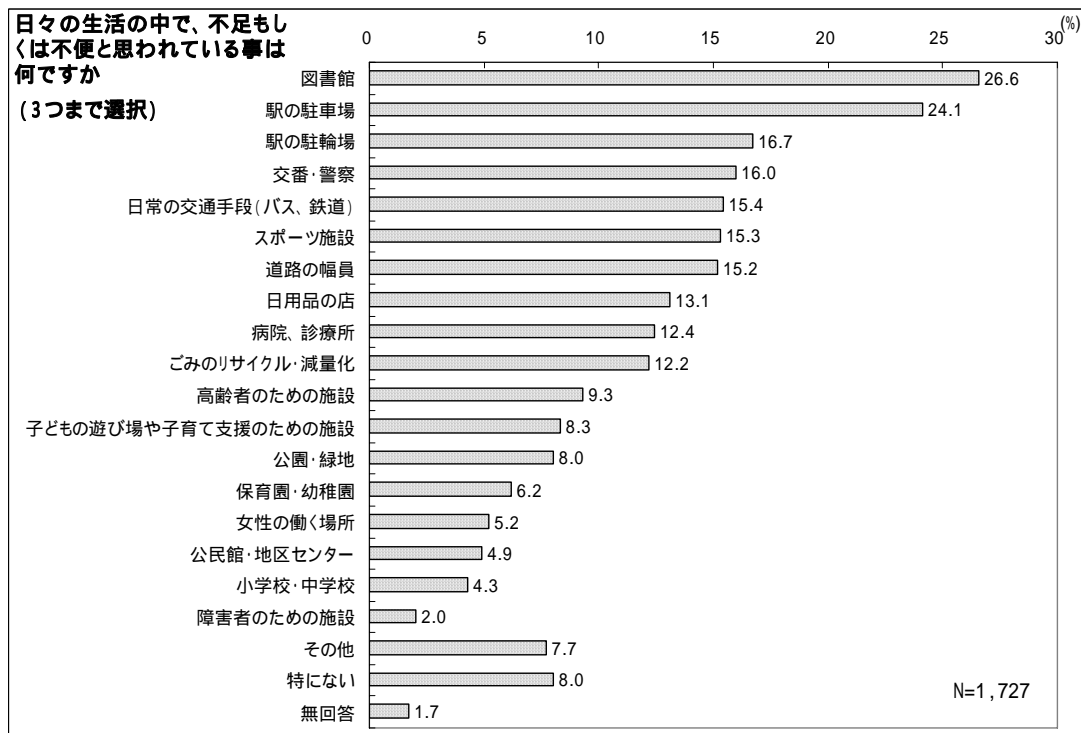


図 - 4 - 年齢別クロス集計

		全体	公園	緑地 (山林 や農地 など)	ごみのリ サイクル・減 量化	道路 (道幅、 渋滞 等)	駅の駐 輪場	駅の駐 車場	交通手 段(バス)	交通手 段(鉄 道)	保育 園・幼 稚園	小学 校・中 学校	子ども の遊び 場や子 育て支 援のた めの施 設	日用品 の店(商 店街)
全 体		1,588	151	152	296	399	450	620	348	191	146	85	315	393
		-	9.5	9.6	18.6	25.1	28.3	39.0	21.9	12.0	9.2	5.4	19.8	24.7
F 2 年齢	16～20歳	55	9.1	12.7	16.4	14.5	27.3	18.2	12.7	14.5	3.6	0.0	18.2	32.7
	21～25歳	65	12.3	16.9	15.4	13.8	32.3	30.8	24.6	27.7	3.1	3.1	21.5	27.7
	26～30歳	96	15.6	14.6	19.8	29.2	27.1	36.5	21.9	14.6	15.6	4.2	29.2	27.1
	31～35歳	142	12.0	6.3	17.6	24.6	32.4	37.3	21.1	13.4	21.8	9.2	30.3	28.9
	36～40歳	167	17.4	8.4	16.2	30.5	26.9	38.3	25.7	11.4	19.2	13.2	29.3	23.4
	41～45歳	172	8.7	9.9	20.9	30.2	34.9	45.9	27.3	14.5	15.1	9.3	25.6	26.2
	46～50歳	119	9.2	11.8	21.8	29.4	32.8	45.4	20.2	16.8	6.7	7.6	25.2	29.4
	51～55歳	133	6.8	9.8	20.3	24.1	28.6	45.1	20.3	13.5	8.3	5.3	17.3	27.1
	56～60歳	171	5.8	9.4	22.8	29.2	26.3	38.6	19.9	12.3	3.5	2.9	8.2	21.1
	61～65歳	153	7.8	7.8	20.3	22.9	27.5	43.1	22.9	6.5	4.6	2.0	11.1	17.0
	66～70歳	119	9.2	12.6	21.8	25.2	26.9	45.4	21.8	4.2	2.5	0.0	16.0	20.2
	76歳以上	84	3.6	6.0	13.1	20.2	21.4	32.1	16.7	9.5	0.0	1.2	11.9	15.5
	その他	83	4.8	4.8	10.8	15.7	19.3	24.1	18.1	7.2	0.0	2.4	7.2	30.1
無回答	29	6.9	3.4	3.4	13.8	24.1	41.4	31.0	0.0	10.3	3.4	27.6	37.9	

		全体	働く場 所	病院、 診療所	図書館	スポー ツ施設	地区セ ンター、 コミュニ ティハウ ス	高齢者 のため の施設	障害者 のため の施設	交番・ 警察	特にな い	その他	無回答
全 体		1,588	159	161	439	298	121	287	143	357	100	84	20
		-	10.0	10.1	27.6	18.8	7.6	18.1	9.0	22.5	6.3	5.3	1.3
F 2 年齢	16～20歳	55	7.3	7.3	32.7	30.9	3.6	7.3	7.3	12.7	10.9	10.9	1.8
	21～25歳	65	9.2	7.7	33.8	26.2	7.7	4.6	4.6	16.9	3.1	1.5	0.0
	26～30歳	96	13.5	10.4	36.5	28.1	7.3	11.5	10.4	15.6	3.1	3.1	0.0
	31～35歳	142	9.9	7.7	28.9	16.2	9.2	2.8	3.5	16.2	3.5	11.3	0.7
	36～40歳	167	14.4	7.8	29.3	16.8	6.6	6.6	6.6	22.2	3.0	6.0	0.0
	41～45歳	172	8.7	11.6	34.3	20.3	8.1	8.7	9.3	20.9	2.3	4.1	0.0
	46～50歳	119	12.6	9.2	29.4	25.2	5.9	18.5	10.9	26.9	5.0	5.9	0.0
	51～55歳	133	9.8	9.0	33.8	22.6	8.3	18.8	9.0	26.3	6.0	3.8	2.3
	56～60歳	171	9.4	11.7	27.5	14.0	8.8	26.3	9.9	26.3	5.8	3.5	1.8
	61～65歳	153	11.8	10.5	22.9	22.2	5.2	28.8	10.5	19.6	11.1	4.6	1.3
	66～70歳	119	9.2	12.6	19.3	11.8	10.1	36.1	11.8	27.7	7.6	4.2	2.5
	76歳以上	84	6.0	9.5	11.9	9.5	7.1	29.8	15.5	28.6	13.1	3.6	2.4
	その他	83	0.0	15.7	12.0	8.4	8.4	31.3	8.4	27.7	15.7	3.6	4.8
無回答	29	17.2	10.3	34.5	13.8	10.3	31.0	6.9	20.7	3.4	17.2	3.4	

(注) 図中の色づけられた箇所は、各年齢で割合の高い項目(1位～3位)

身近な住環境について心配なこと

「敷地の造成にともなう緑地の減少」が最も多く、以下「路上駐車」「ごみの不法投棄」「まちなみを乱す建物、広告物など」など、美しいまちなみに悪影響を及ぼす要因への懸念が多く見られる。年齢別にみると16歳～25歳の若い世代では「ごみの不法投棄」が多く、ごみに対する関心が高いことがわかる。

図 - 5 - 身近な住環境について心配なこと

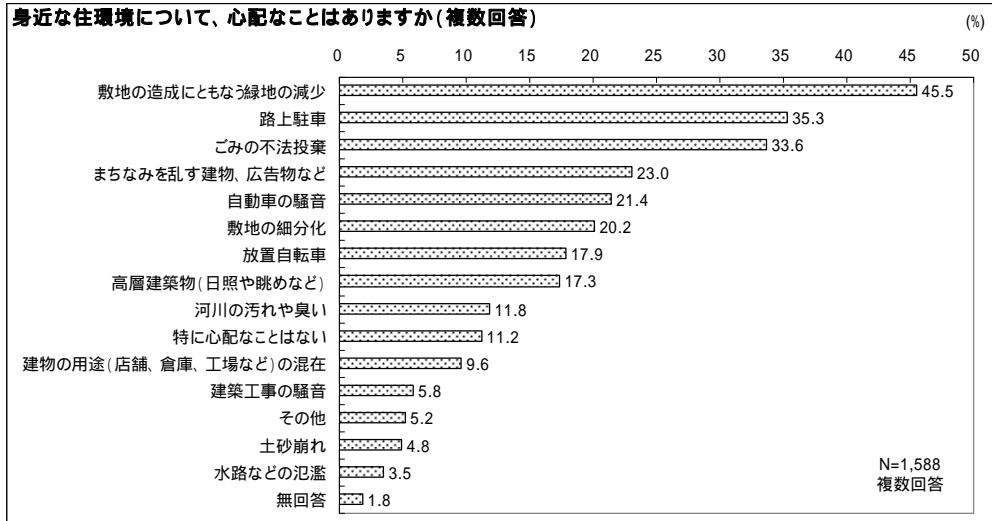


図 - 5 - 年齢別クロス集計

		全体	まちなみを乱す建物、広告物など	建物の用途(店舗、倉庫、工場など)の混在	高層建築物(日照や眺めなど)	敷地の細分化	敷地の造成にともなう緑地の減少	土砂崩れ	建築工事の騒音	自動車の騒音
全体		1,588	366	152	275	320	723	77	92	340
		-	23.0	9.6	17.3	20.2	45.5	4.8	5.8	21.4
F 2 年齢	16～20歳	55	20.0	10.9	14.5	3.6	34.5	3.6	9.1	16.4
	21～25歳	65	32.3	4.6	20.0	7.7	32.3	3.1	9.2	23.1
	26～30歳	96	32.3	10.4	13.5	10.4	41.7	8.3	7.3	21.9
	31～35歳	142	13.4	7.0	12.0	10.6	35.2	4.9	7.7	24.6
	36～40歳	167	16.8	7.2	15.0	10.2	44.9	3.6	7.2	22.2
	41～45歳	172	27.9	10.5	20.9	18.0	40.7	8.7	7.6	24.4
	46～50歳	119	24.4	14.3	14.3	21.8	43.7	5.9	3.4	16.0
	51～55歳	133	30.8	13.5	18.0	18.8	51.1	6.0	6.8	24.1
	56～60歳	171	22.2	9.4	20.5	30.4	63.2	2.9	2.3	19.3
	61～65歳	153	26.1	10.5	22.9	33.3	49.7	3.9	5.9	24.2
	66～70歳	119	20.2	8.4	17.6	27.7	52.1	2.5	5.0	18.5
76歳以上	84	19.0	7.1	16.7	26.2	34.5	2.4	1.2	22.6	
その他	83	15.7	3.6	15.7	28.9	43.4	6.0	3.6	14.5	
無回答	29	24.1	24.1	13.8	24.1	58.6	3.4	6.9	24.1	

		全体	路上駐車	放置自転車	ごみの不法投棄	水路などの氾濫	河川の汚れや臭い	特に心配なことはない	その他	無回答
全体		1,588	561	284	534	55	188	178	83	29
		-	35.3	17.9	33.6	3.5	11.8	11.2	5.2	1.8
F 2 年齢	16～20歳	55	34.5	21.8	36.4	3.6	23.6	12.7	1.8	1.8
	21～25歳	65	29.2	20.0	38.5	9.2	24.6	10.8	4.6	1.5
	26～30歳	96	41.7	17.7	28.1	7.3	12.5	13.5	8.3	0.0
	31～35歳	142	36.6	12.0	32.4	1.4	15.5	9.9	5.6	1.4
	36～40歳	167	31.7	12.0	31.7	3.6	10.8	10.2	4.8	0.6
	41～45歳	172	44.8	19.2	36.0	2.9	9.3	8.7	4.7	0.0
	46～50歳	119	37.0	15.1	33.6	0.8	12.6	13.4	9.2	1.7
	51～55歳	133	38.3	18.8	38.3	3.8	11.3	9.0	3.8	3.8
	56～60歳	171	38.0	18.7	38.0	3.5	8.8	8.2	4.1	1.8
	61～65歳	153	34.6	22.9	32.0	4.6	12.4	9.2	9.2	0.0
	66～70歳	119	29.4	21.0	34.5	3.4	12.6	10.9	2.5	5.0
76歳以上	84	32.1	15.5	26.2	1.2	6.0	19.0	2.4	3.6	
その他	83	19.3	22.9	25.3	1.2	1.2	21.7	3.6	4.8	
無回答	29	34.5	17.2	41.4	6.9	20.7	6.9	6.9	3.4	

(注) 図中の色づけられた箇所は、各年齢で割合の高い項目(1位～3位)

3. 防犯について

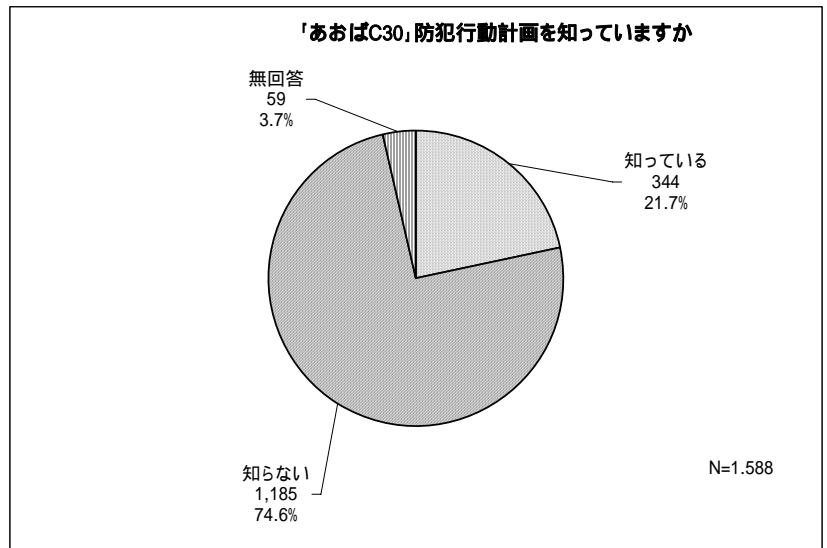
「あおば C30」防犯行動計画の認知度は高いとは言えない。安全について最も不安なのは「空き巣や車上ねらいなどの窃盗犯罪」、犯罪を未然に防ぐためには、「警察による防犯パトロール強化」や「防犯設備の充実」、「犯罪情報の提供」などが望まれている。地域の防犯のために協力できそうな取り組みとしては、「自宅の防犯強化」が挙げられている。

「あおば C30」防犯行動計画の認知度

「知らない」が全体の4分の3を占める。

「知っている」は2割強である。

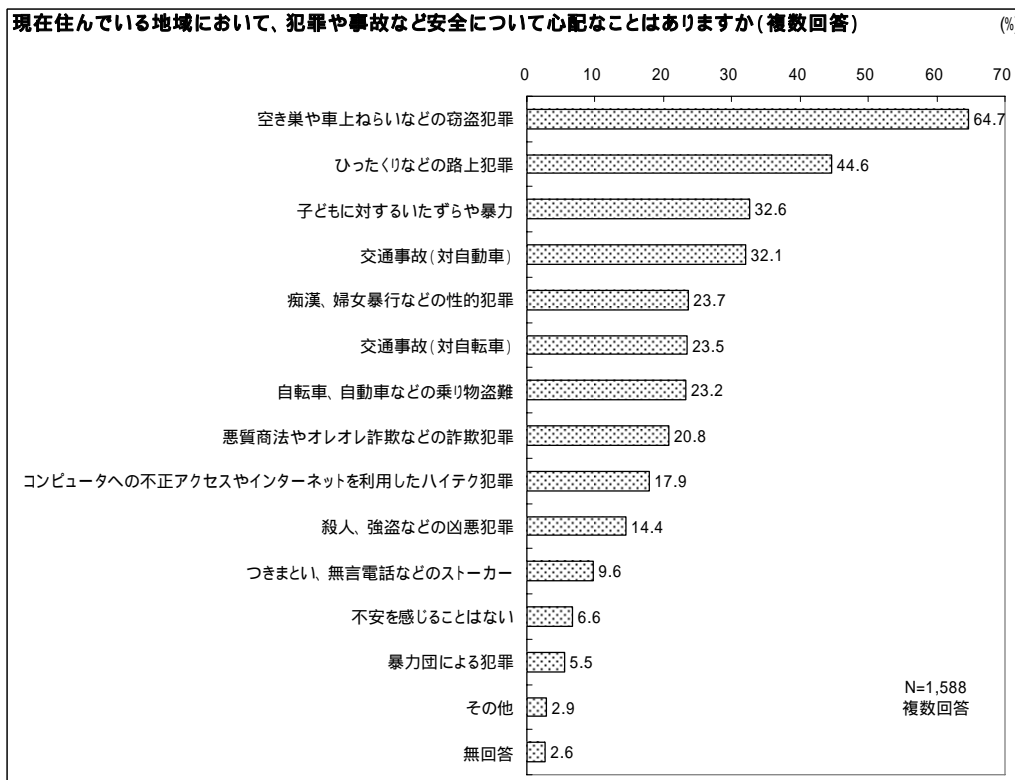
図 - 6 「あおば C30」防犯行動計画の認知度



犯罪や事故など安全についての不安

「空き巣や車上ねらいなどの窃盗犯罪」が最も多く、次いで「ひったくりなどの路上犯罪」が、以下「子どもに対するいたずらや暴力」、「交通事故（対自動車）」、「痴漢、婦女暴行などの性的犯罪」、「交通事故（対自転車）」、「自転車、自動車などの乗り物盗難」、「悪質商法やオレオレ詐欺などの詐欺犯罪」などの順となっている。

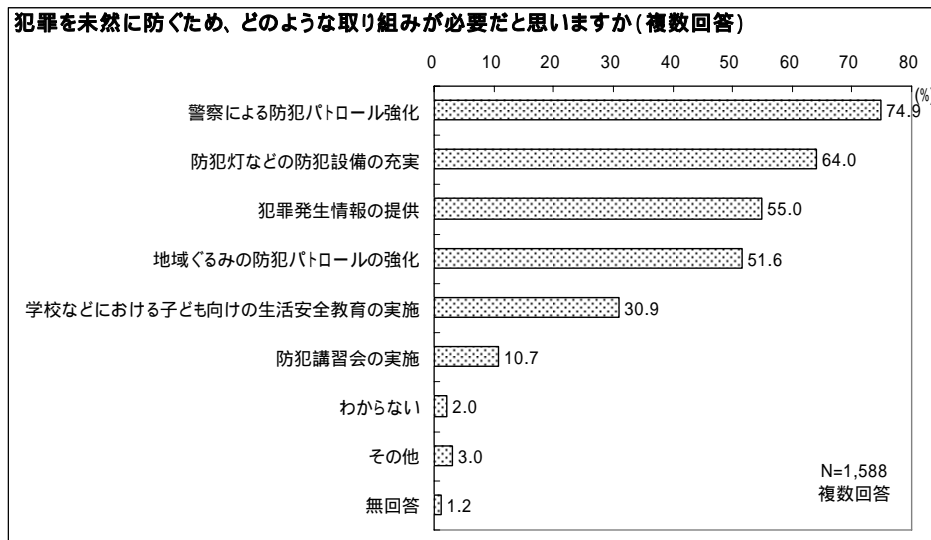
図 - 7 犯罪や事故など安全についての不安



犯罪を未然に防ぐため必要な取り組み

最も多かったのは「警察による防犯パトロール強化」が7割強で最も多い。次いで「防犯灯などの防犯設備の充実」、「犯罪発生情報の提供」、「地域ぐるみの防犯パトロールの強化」などの順となっている。

図 - 8 犯罪を未然に防ぐため必要な取り組み



地域の防犯に対して実行できそうな取り組み

「自宅の防犯強化をする(玄関やドアの鍵を増やす、防犯カメラを設置するなど)」が最も多く、「門灯をつけ、夜道を明るくする」、「留守にするときなど、近所で声をかけ合える関係づくりをする」、「登下校時の子どもの見守りをする」、「防犯パトロールに参加する」などの順となっている。年齢別にみても、全体的に「自宅の防犯強化をする(玄関やドアの鍵を増やす、防犯カメラを設置するなど)」が多いが、31歳~40歳では「登下校時の子どもの見守りをする」が多くなっている。

図 - 9 - 地域の防犯に対して実行できそうな取り組み

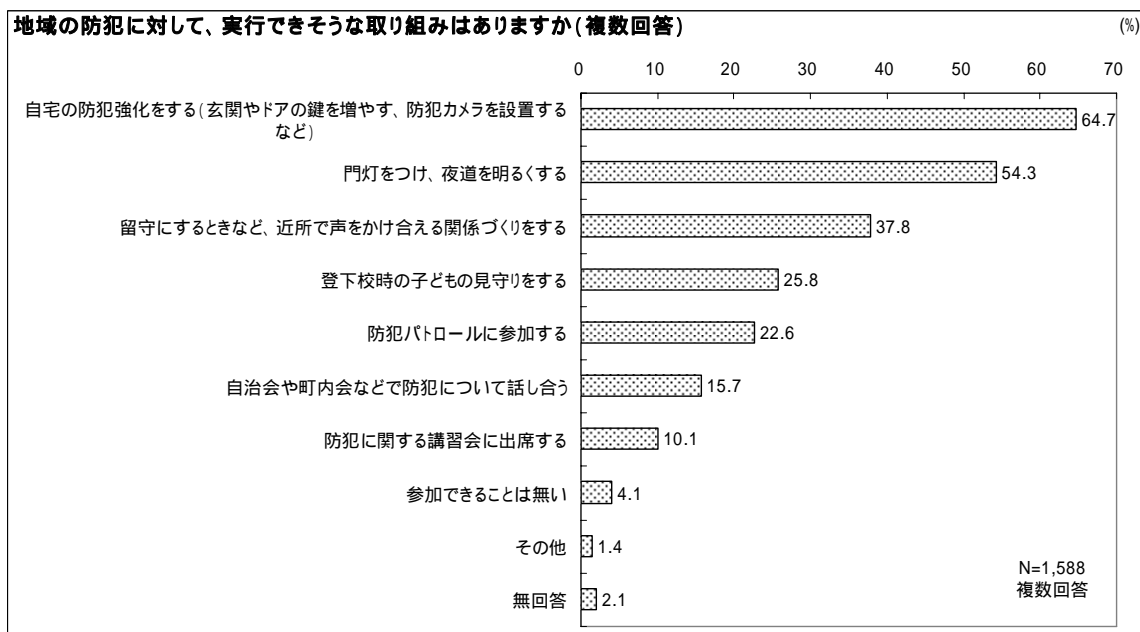


図 - 9 - 年齢別クロス集計

		全体	自宅の防犯強化をする (玄関やドアの鍵を増やす、防犯カメラを設置するなど)	門灯をつけ、夜道を明るくする	留守にするときなど、近所で声をかけ合える関係づくりをする	自治会や町内会などで防犯について話し合う	防犯に関する講習会に出席する
全 体		1,588	1,027	863	600	250	161
		-	64.7	54.3	37.8	15.7	10.1
F 2 年齢	16～20歳	55	56.4	50.9	29.1	3.6	3.6
	21～25歳	65	64.6	66.2	32.3	9.2	7.7
	26～30歳	96	67.7	46.9	29.2	12.5	8.3
	31～35歳	142	67.6	34.5	38.7	14.1	10.6
	36～40歳	167	62.9	52.7	36.5	10.2	6.0
	41～45歳	172	70.3	54.1	37.8	11.0	9.9
	46～50歳	119	67.2	53.8	35.3	17.6	9.2
	51～55歳	133	64.7	58.6	39.1	17.3	12.0
	56～60歳	171	65.5	62.6	42.1	19.9	9.9
	61～65歳	153	62.1	52.9	38.6	19.0	11.8
	66～70歳	119	67.2	61.3	42.0	22.7	14.3
	76歳以上	84	59.5	60.7	41.7	22.6	13.1
	その他	83	53.0	53.0	37.3	20.5	13.3
無回答	29	69.0	65.5	44.8	13.8	10.3	

		全体	登下校時の子どもの見守りをする	防犯パトロールに参加する	参加できることは無い	その他	無回答
全 体		1,588	409	359	65	23	33
		-	25.8	22.6	4.1	1.4	2.1
F 2 年齢	16～20歳	55	21.8	20.0	7.3	5.5	0.0
	21～25歳	65	10.8	10.8	3.1	0.0	1.5
	26～30歳	96	13.5	14.6	3.1	1.0	2.1
	31～35歳	142	40.1	24.6	3.5	1.4	0.7
	36～40歳	167	45.5	26.3	2.4	0.6	0.6
	41～45歳	172	34.9	28.5	3.5	1.7	1.2
	46～50歳	119	22.7	22.7	4.2	2.5	2.5
	51～55歳	133	22.6	23.3	3.8	1.5	2.3
	56～60歳	171	17.0	22.2	2.3	1.8	1.2
	61～65歳	153	18.3	24.2	5.9	1.3	4.6
	66～70歳	119	25.2	27.7	1.7	1.7	4.2
	76歳以上	84	27.4	22.6	6.0	0.0	1.2
	その他	83	12.0	13.3	12.0	0.0	6.0
無回答	29	24.1	10.3	3.4	3.4	0.0	

(注) 図中の色づけられた箇所は、各年齢で割合の高い項目(1位～3位)

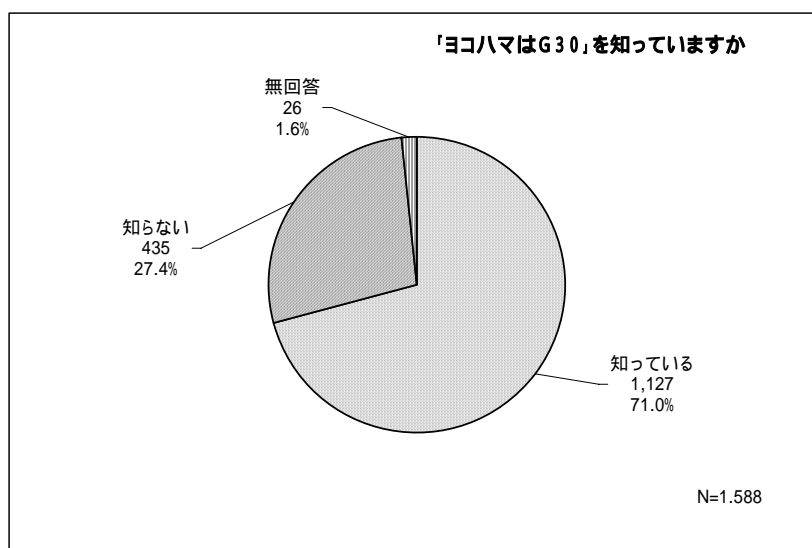
4. 環境活動について

「ヨコハマはG30」の認知度は高い。身近な緑や農地については、強い保全意向がある。自然環境保護への関心も高く、自然を汚さない工夫やマイバックの持参、自宅や公園における花や緑の育成には積極的に取り組まれている。ただし「150万本植樹行動」の認知度は低い。

「ヨコハマはG30」の認知度

「知っている」が7割以上に達しており、認知度は高い。

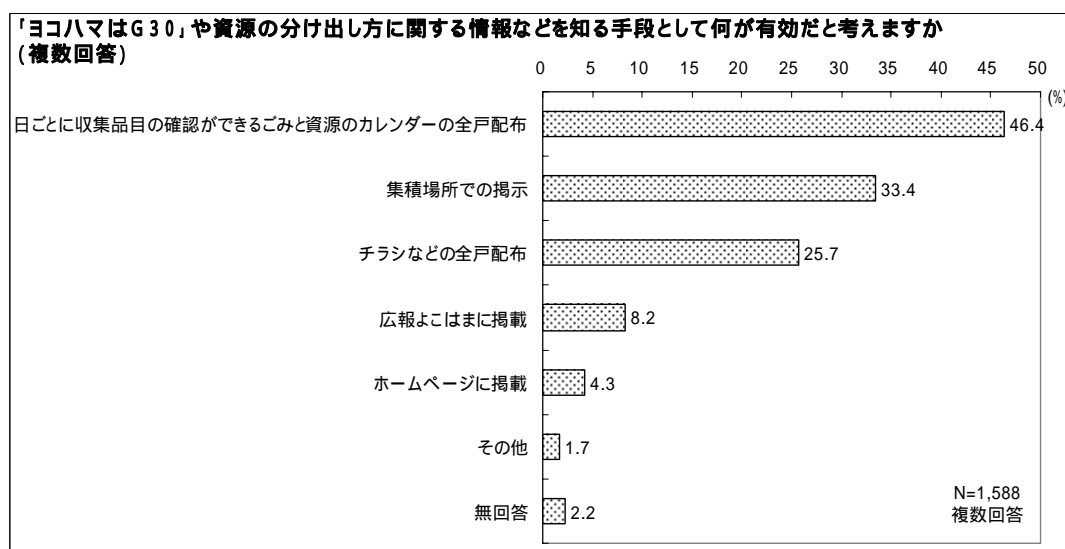
図 - 10 「ヨコハマはG30」の認知度



「ヨコハマはG30」や資源の分け出し方に関する情報などを知るのに有効な手段

「日ごとに収集品目の確認ができるごみと資源のカレンダーの全戸配布」が最も多い

図 - 11 「ヨコハマはG30」や資源の分け出し方に関する情報などを知るのに有効な手段



身近な緑や農地について、今後どのようにしていくべきか

「積極的に残していくべき」が8割弱を占め、突出して多くなっている。

「150万本植樹行動」の認知度

「知らない」が90.9%で、10人の内9人が知らないとしている。「知っている」は7.6%で1割に満たない。

図 - 12 身近な緑や農地について

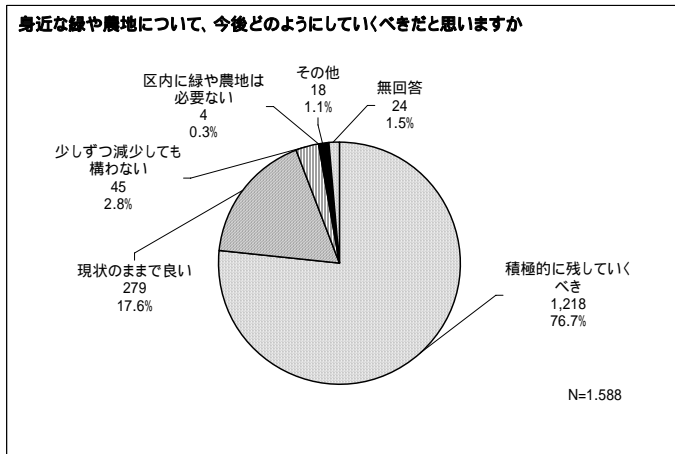
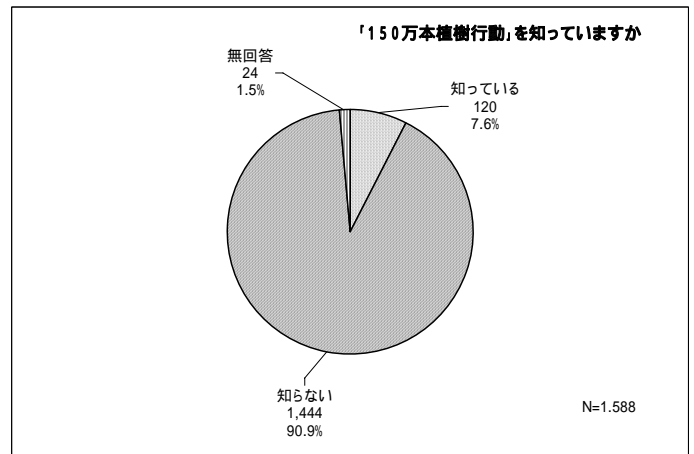


図 - 13 - 「150万本植樹行動」の認知度



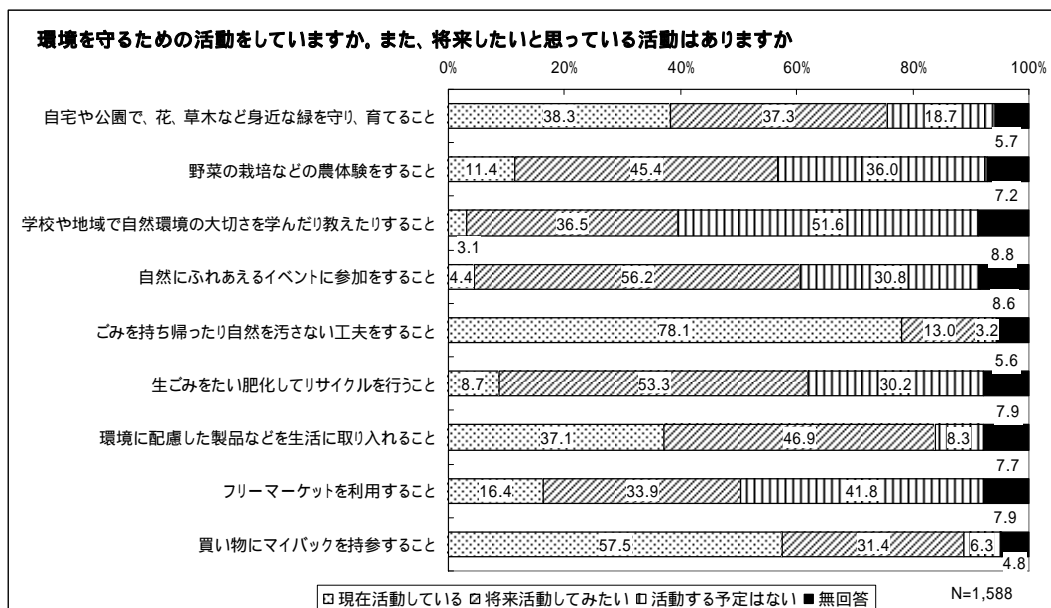
環境を守るための活動について

「現在活動している」が最も多くなっているのは、「ゴミを持ち帰ったり自然を汚さない工夫をすること」「買い物にマイバックを持参すること」。なお「自宅や公園で、花、草木など身近な緑を守り、育てること」は「現在活動している」が最も多いが、「将来活動してみたい」もほぼ拮抗している。

「将来活動してみたい」が最も多くなっているのは「野菜の栽培などの農体験をすること」、「自然にふれあえるイベントに参加をすること」、「生ごみをたい肥化してリサイクルを行うこと」、「環境に配慮した製品などを生活に取り入れること」。

「活動する予定はない」が最も多くなっているのは「学校や地域で自然環境の大切さを学んだり教えたりすること」、「フリーマーケットを利用すること」。

図 - 14 環境を守るための活動について



5. 子育てや福祉について

未就学の子どもがいる家庭は全体の 15%、小学生から高校生までの子どもがいる家庭は 25%。未就学の子どもがいる場合は「子どもを気軽に預けられるところが少ないこと」、小学生から高校生までの子どもがいる場合は「学校や塾の費用などの教育費の負担が大きいこと」が最も大きな不安要因である。

未就学の子どもの有無

「いない」が 8 割強となっている。

子育てに関する不安、不満(未就学の子どもがいる場合)

「子どもを気軽に預けられるところが少ないこと」が最も多く、次いで「近所で子どもを安心して遊ばせる場所が少ないこと」となっている。

図 - 15 - 子育てに関する不安、不満(未就学の子どもがいる場合)

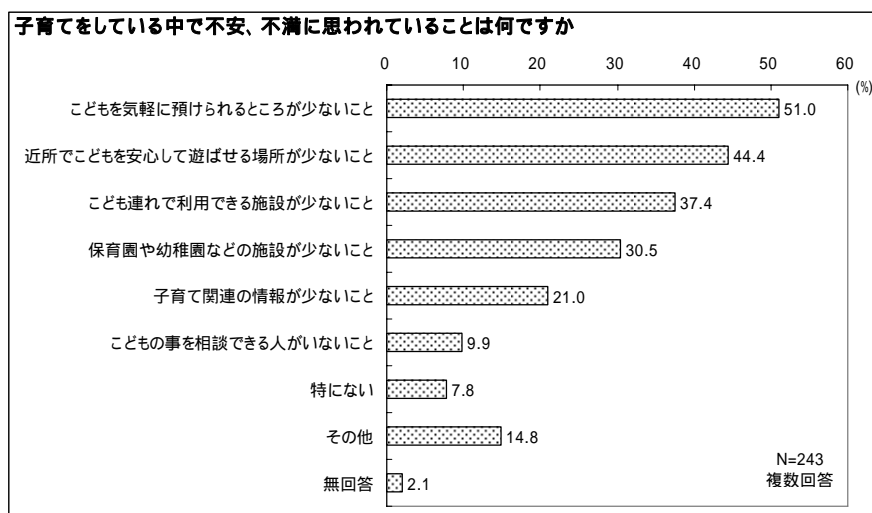


図 - 15 - 「その他」意見内容

意見内容		件数	
子育て関連施設	子育て支援施設がない、不便	6	11
	空き地がない	1	
	公園に子どもが少ない	1	
	公園の遊具が危険	1	
	図書館がない	1	
	放課後過ごす場所がない	1	
子育てへの環境	防犯体制が不安	4	10
	医療体制が脆弱(小児科医、救急病院の不足)	3	
	子育てには不親切な町	2	
	歩道がない	1	
子育て支援制度	医療費が高い、補助がない	6	9
	子育てに関する補助制度がない	3	
保育園・幼稚園・学校	私立の幼稚園しかない	2	8
	保育園に入れない	2	
	遅くまで見てくれる保育園がない	1	
	緊急時に子どもを預けられない	1	
	公立小中学校の児童数減少	1	
	保育園の内情が不満	1	
合計		38	38

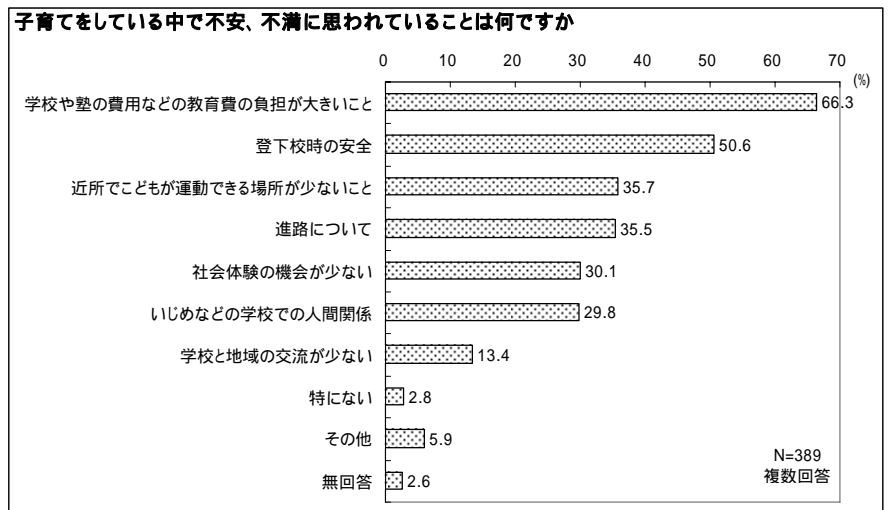
**小学生から高校生までの
子どもの有無**

「いない」が全体の
4分の3となっている。

**子育てに関する不安、不満(小学
生から高校生までの子どもが
いる場合)**

「学校や塾の費用などの教育費の負担が大きいこと」が最も多く、次いで「登下校時の安全」となっている。以下「近所で子どもが運動できる場所が少ないこと」、「進路について」、「社会体験の機会が少ない」、「いじめなどの学校での人間関係」などの順となっている。

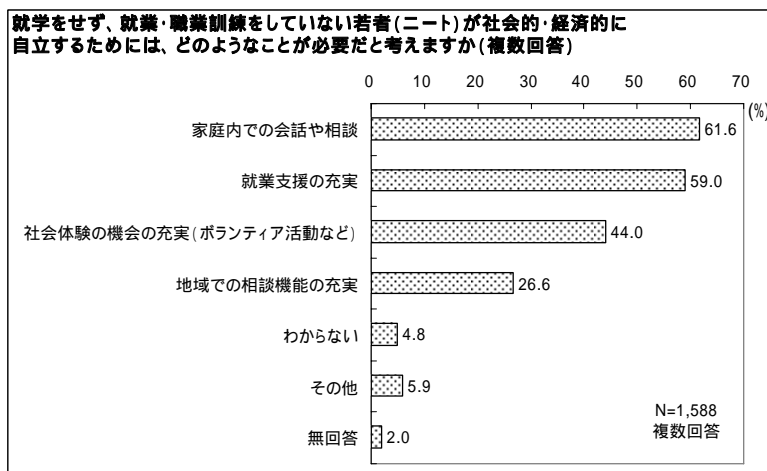
**図 - 16 子育てに関する不安、不満
(小学生から高校生までの子どもがいる場合)**



就学をせず、就業・職業訓練をしていない若者(ニート)が社会的・経済的に自立するためには、「家庭内での会話や相談」や「就業支援の充実」が有効と考えられている。障害者や高齢者が健やかで快適な生活を送るためには「生きがいを感じられるような活動の支援」「障害者、高齢者の家族への支援」が求められている。また、多くの人が食卓や栄養に気を配るなど、健康維持に取り組んでいる。

就学をせず、就業・職業訓練をしていない若者(ニート)が社会的・経済的に自立するために必要なこと
「家庭内での会話や相談」が最も多く、次いで「就業支援の充実」などの順となっている。

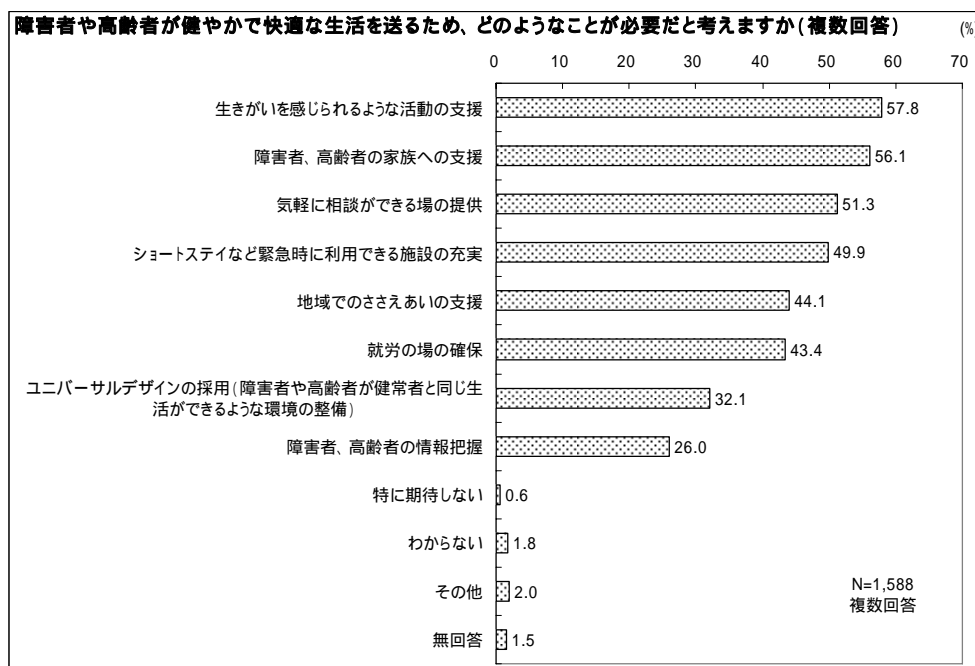
**図 - 17 就学をせず、就業・職業訓練をしていない若者(ニート)が
社会的・経済的に自立するために必要なこと**



障害者や高齢者が健やかで快適な生活を送るために必要なこと

「生きがいを感じられるような活動の支援」が最も多く、「障害者、高齢者の家族への支援」が僅差で続く。以下「気軽に相談ができる場の提供」、「ショートステイなど緊急時に利用できる施設の充実」、「地域でのささえあいの支援」、「就労の場の確保」などの順で、「特に期待しない」はごく少数に留まった。

図 - 18 障害者や高齢者が健やかで快適な生活を送るために必要なこと



健康維持のため取り組んでいること

最も多いのは「食事・栄養に気をつけている」である。次いで「休養や睡眠を充分にとる」、「定期的に健康診断を受けている」などの順となっている。「何もしていない」は少数であった。また、性別でみると、女性は「健康や病気に関するテレビ、新聞記事、雑誌などを見て情報を得ている」が男性より多くなっていることがわかる。

図 - 19 - 健康維持のため取り組んでいること

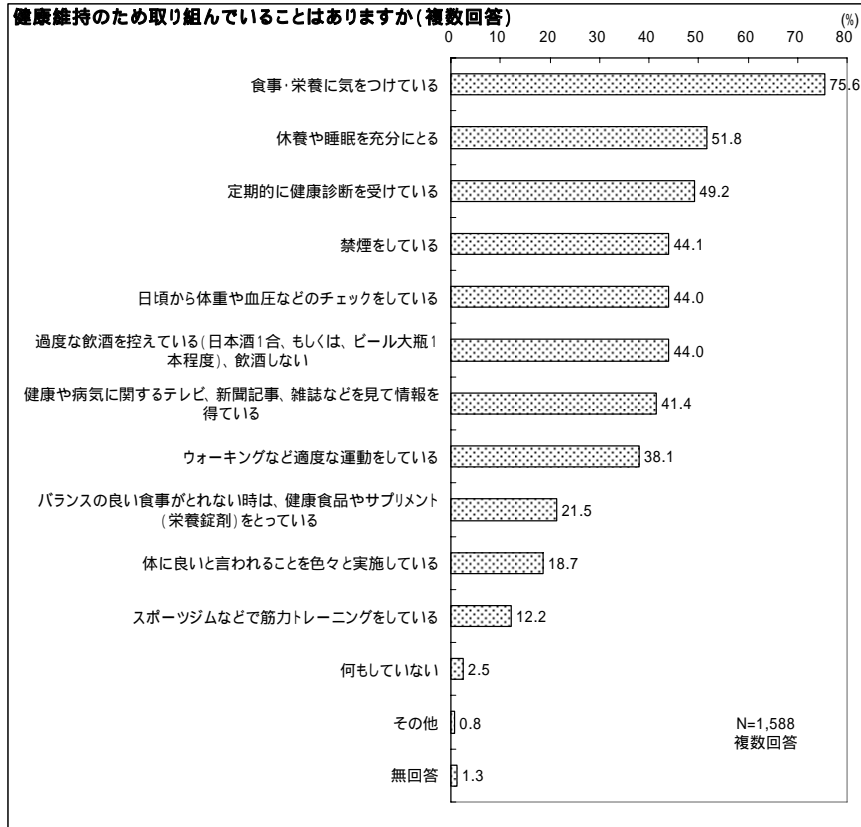


図 - 19 - 性別クロス集計

		全体	食事・栄養に気をつけている	バランスの良い食事がとれない時は、健康食品やサプリメント(栄養錠剤)をとっている	定期的に健康診断を受けている	日頃から体重や血圧などのチェックをしている	休養や睡眠を充分にとる	健康や病気に関するテレビ、新聞記事、雑誌などを見て情報を得ている	体に良いと言われることを色々と実施している
全体		1,588	1,200	341	781	698	822	657	297
		-	75.6	21.5	49.2	44.0	51.8	41.4	18.7
F 1 性別	男性	647	70.2	17.9	53.2	45.6	48.7	33.1	16.5
	女性	896	79.6	24.0	46.7	43.1	54.2	47.7	20.0
	無回答	45	73.3	22.2	42.2	37.8	46.7	35.6	24.4

		全体	ウォーキングなど適度な運動をしている	スポーツジムなどで筋力トレーニングをしている	禁煙をしている	過度な飲酒を控えている(日本酒1合、もしくは、ビール大瓶1本程度)、飲酒しない	何もしていない	その他	無回答
全体		1,588	605	193	700	698	40	13	20
		-	38.1	12.2	44.1	44.0	2.5	0.8	1.3
F 1 性別	男性	647	43.6	12.4	47.1	43.6	3.1	0.8	1.1
	女性	896	34.4	12.4	42.2	44.4	2.1	0.9	1.1
	無回答	45	33.3	4.4	37.8	40.0	2.2	0.0	6.7

(注) 図中の色づけられた箇所は、割合の高い項目(1位~3位)

6. 行政サービスについて

行政情報の入手方法は広報が中心。行政サービスコーナーにおける証明書発行業務の認知度は高く、利用意向も9割を超える。

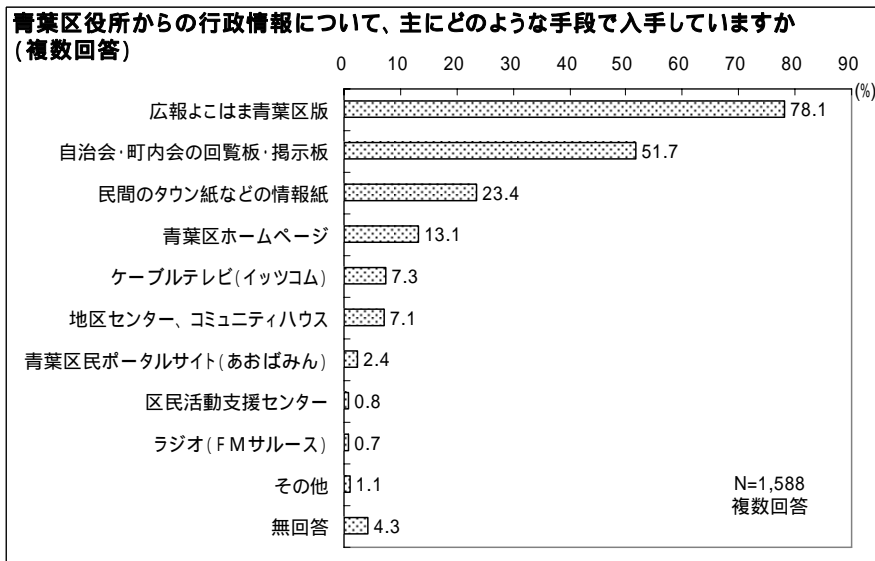
行政情報の入手方法

「広報よこはま青葉区版」が突出して多くなっている。次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」、「民間のタウン紙などの情報誌」と続く。

年齢別にみると、26歳～40歳では「青葉区ホームページ」が多い。また、61歳以上の世代では「自治会・町内会の回覧板・掲示板」が多く、逆に若い世代になるにつれ、少なくなっている。

図 - 20 - 行政情報の入手方法

図 - 20 - 年齢別クロス集計(抜粋)



		青葉区ホームページ	自治会・町内会の回覧板・掲示板
F 2 年齢	16～20歳	7.3	23.6
	21～25歳	13.8	29.2
	26～30歳	22.9	25.0
	31～35歳	27.5	27.5
	36～40歳	21.0	39.5
	41～45歳	18.6	44.8
	46～50歳	13.4	47.9
	51～55歳	9.8	58.6
	56～60歳	5.8	67.3
	61～65歳	6.5	69.3
	66～70歳	5.0	71.4
	76歳以上	1.2	78.6
	その他	9.6	72.3
無回答	10.3	55.2	

(注) 図中の色づけられた箇所は、割合の高いもの(1位～3位)

行政サービスコーナーにおける証明書発行業務の認知度

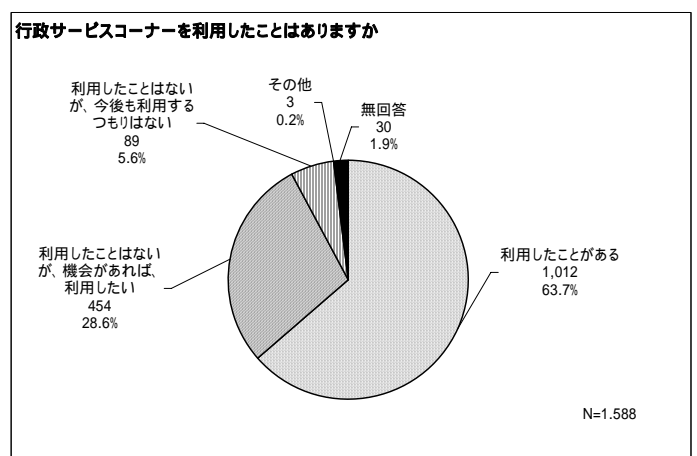
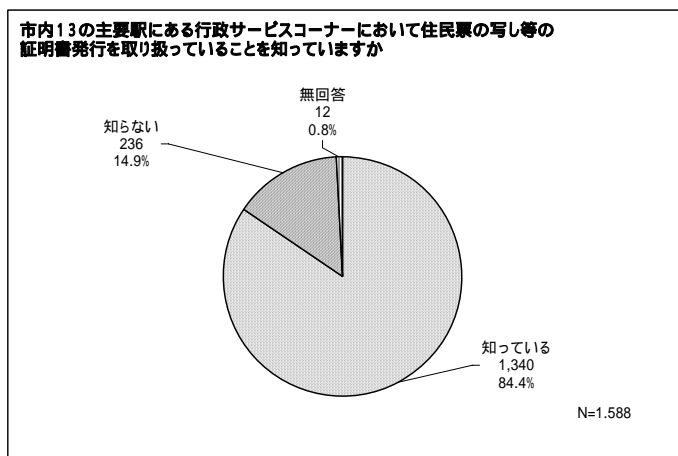
「知っている」が8割以上に達し、認知度は高い。

行政サービスコーナー利用の有無

「利用したことがある」が6割強で、最も多い。「利用したことはないが、機会があれば、利用したい」を合わせると利用意向は9割を超える。

図 - 21 行政サービスコーナーにおける
証明書発行業務の認知度

図 - 22 行政サービスコーナー利用の有無



青葉区で今後予定している2つのサービスについて、認知状況はいずれも低いですが、利用意向は共に6～7割と高くなっている。

青葉区で、今後予定しているサービスの認知状況及び利用意向

「平成19年10月を目途に区内全地区センター（山内図書館に隣接する山内地区センターを除く）で横浜市立図書館の予約本の貸出、返却サービスを実施します」

〔1〕認知状況

- ・ 「知らない」が7割強、「知っている」が2割強となっている。

〔2〕利用意向

- ・ 「利用したい」が最も多く半数を超え、「利用するつもりはない」が3割程度。

「平成20年1月を目途に、区内2か所の郵便局で、住民票の写し等証明書発行サービスをモデル的に実施します」

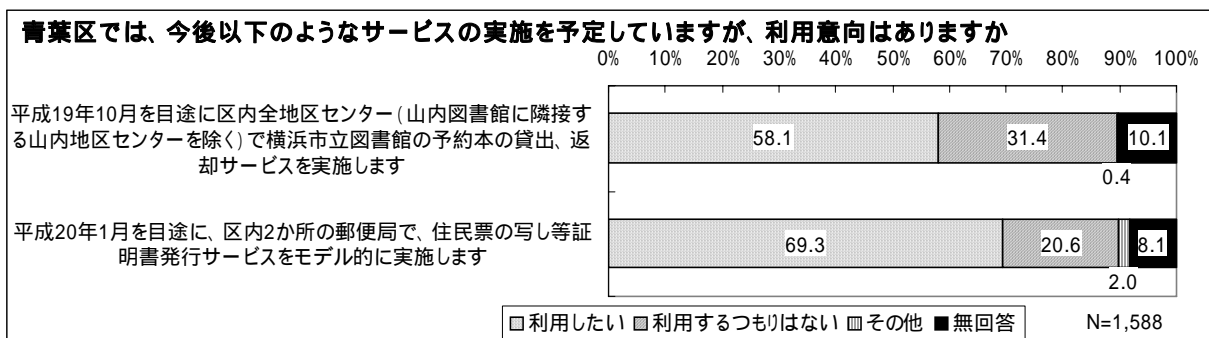
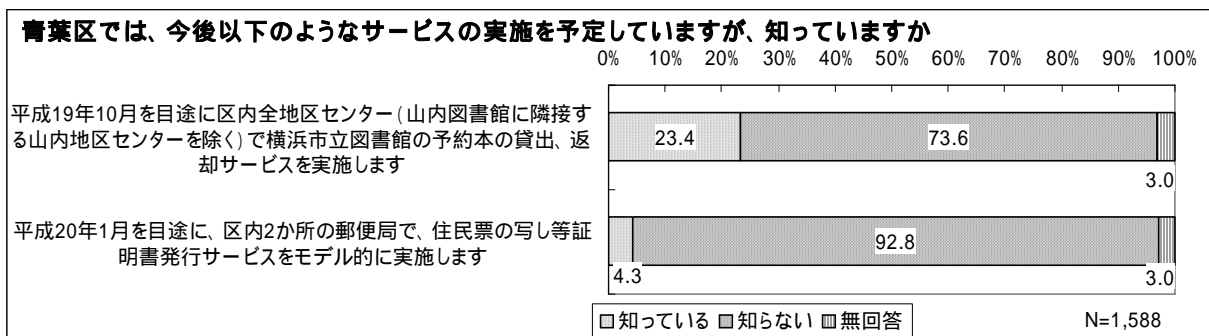
〔1〕認知状況

- ・ 「知らない」が9割超と大半を占める。

〔2〕利用意向

- ・ 「利用したい」が最も多く7割近くに達する。「利用するつもりはない」が約2割。

図 - 23 サービスの認知状況及び利用意向



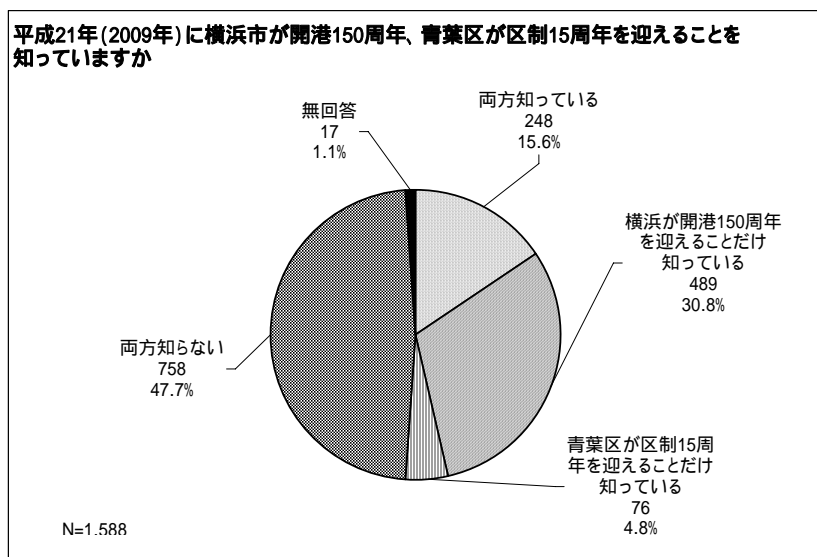
7. 横浜市開港 150 周年、青葉区区制 15 周年について

横浜市開港 150 周年、青葉区区制 15 周年の認知度については、半数弱が「両方知らない」としている。横浜が開港 150 周年の認知度は5割弱、青葉区区制 15 周年の認知度は約2割と低くなっている。記念事業として望ましいのは記念誌の発行。

横浜市開港 150 周年、青葉区区制 15 周年の認知度

「両方知らない」が全体の半数弱を占める。次いで「横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている」と続く。なお横浜が開港 150 周年の認知度は 5 割弱、青葉区区制 15 周年の認知度は約 2 割となっている。

図 - 24 - 横浜市開港 150 周年、青葉区区制 15 周年の認知度



青葉区制 15 周年記念事業として望ましいもの

若い世代では「音楽祭の開催」が多く、年齢が高くなるにつれ「記念誌の発行」が多くなっている。

記念事業への参加形態

「見学者として」が最も多く半数を超える。「参加できない」は3割。

図 - 25 - 青葉区制 15 周年記念事業として望ましいもの

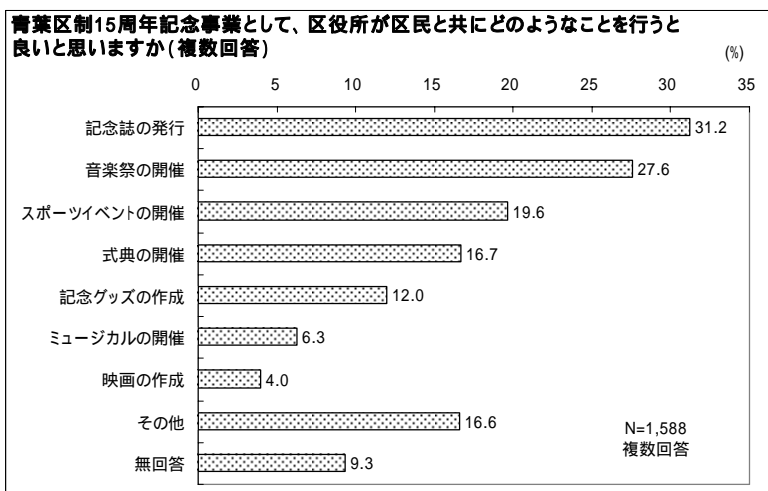


図 - 26 記念事業への参加形態

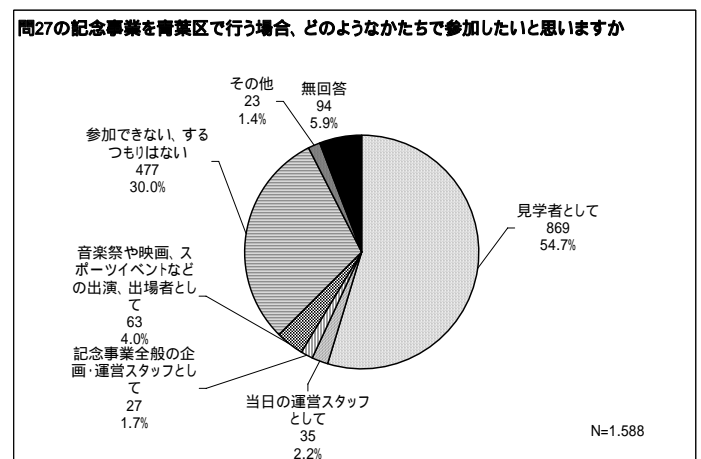


図 - 25 - 年齢別クロス集計

		全体	式典の開催	記念誌の発行	音楽祭の開催	映画の作成	ミュージカルの開催	スポーツイベントの開催	記念グッズの作成	その他	無回答
全 体		1,588	265	495	438	63	100	312	190	264	148
		-	16.7	31.2	27.6	4.0	6.3	19.6	12.0	16.6	9.3
F 2 年齢	16～20歳	55	29.1	23.6	36.4	5.5	10.9	21.8	32.7	14.5	1.8
	21～25歳	65	24.6	29.2	36.9	4.6	7.7	23.1	12.3	12.3	7.7
	26～30歳	96	20.8	14.6	27.1	4.2	8.3	21.9	14.6	16.7	12.5
	31～35歳	142	19.7	23.2	30.3	4.9	10.6	28.9	8.5	18.3	5.6
	36～40歳	167	21.6	21.6	25.7	0.0	9.6	24.0	12.0	19.2	9.0
	41～45歳	172	15.1	25.6	22.7	1.7	7.0	18.6	15.1	24.4	7.6
	46～50歳	119	16.0	32.8	25.2	5.9	6.7	20.2	13.4	21.0	10.1
	51～55歳	133	15.8	27.8	34.6	6.0	3.0	23.3	9.0	18.8	6.8
	56～60歳	171	14.0	36.8	31.0	1.8	3.5	12.3	12.3	16.4	5.8
	61～65歳	153	13.1	32.0	26.1	6.5	5.2	19.6	9.8	16.3	9.2
	66～70歳	119	11.8	50.4	20.2	1.7	1.7	17.6	9.2	10.1	11.8
	76歳以上	84	14.3	48.8	21.4	4.8	4.8	11.9	10.7	6.0	16.7
	その他	83	13.3	48.2	28.9	9.6	4.8	9.6	7.2	7.2	18.1
無回答	29	6.9	24.1	27.6	3.4	6.9	20.7	6.9	20.7	20.7	

(注) 図中の色づけられた箇所は、各年齢で割合の高いもの(1位～3位)

図 - 25 - 「その他」意見内容

(図 - 25 - 「その他」は、無記述を含む)

意見内容	件数
不要	188
無駄	138
税金を他に利用	33
広報事業	13
区政の充実	3
キャンペーン	1
記念事業	62
イベントの実施	34
記念植樹	8
記念品	8
キャンペーン	4
記念施設	3
記念事業	3
具体的事業案	2
開催	12
できるだけ簡素化	12
総計	262

青葉区政についての具体的な意見、要望、提案

青葉区政についての意見として多かったのは、分野ごとに「行政」、「環境」、「交通・道路」、「教育・文化」、「福祉」、「防犯・防災」、「ごみ」、「医療」、「地域」の順である。個別の意見として最も多かったのは「行政窓口・サービス」についての意見。その他、目立ったものとしては「福祉(子育て)」、「行政としての姿勢」、「交通」、「道路」、「自然・緑・河川」、「住宅環境」、「税金」などとなっている。

特に、下記の意見、要望、提案が多くなっている。

- ・ 「行政」分野では、「(税金など)無駄使いや不正をなくしてほしい」
- ・ 「環境」分野では、「緑の保全を積極的にするべき」
- ・ 「交通・道路」分野では、「バス路線の充実、増便」、「駐車違反の取締り強化」、「歩道の整備」
- ・ 「教育・文化」分野では、「図書館が欲しい」
- ・ 「福祉」分野では、「子育て支援や遊び場の充実」
- ・ 「防犯」分野では、「街灯が少なく夜道が危険」、「パトロールの強化、改善」
- ・ 「ごみ」分野では、「ごみ収集の日を増やしてほしい」